

長門市勢要覧

ながとの風

A BREEZE FROM NAGATO

ながとの風

CONTENTS

美しい人、みずゞさんに出会う道	4
画家、香月泰男のアトリエで感じる時間	6
近松門左衛門を生み出した長門の風土	8
維新回天の礎、郷土の師、村田清風	9

旅する長門

北西風の海へ 鯨のいた風景	10
森を鳴らす風 歴史と伝説の道	16
コバルトの風を呼ぶ 海上アルプス青海島	20
風の丘から 棚田のふるさと	22
炎と風のうた 萩焼の里 長門深川三ノ瀬	24
新しい文化の風 伝統と創造のある風景	26

長門の新しい風

自然と人がやすらぐ安全なまち	29
6次産業が栄えるまち	30
生きがいと笑顔があふれるまち	31
個性豊かに人が輝くまち	32
みんなで創り、自分発信するまち	33

長門路、東から西へ	34
-----------	----

A BREEZE FOR NAGATO (英訳版)	38
---------------------------	----

INFORMATION	42
-------------	----

PROLOGUE

本州の最西北端、山口県の西北部に位置する長門市。東は萩市、南は下関市、美祢市、秋芳町、美東町に接し、北側には北長門海岸国定公園に指定される美しい日本海の風景が広がっています。

この土地が長門国大津郡として成立したのは、大化改新により国郡里制が構築された7世紀後半といわれています。江戸時代には長州藩下で前大津と先大津の両宰判に分けられ、明治に入ると大区制により区分されました。その後、郡制復活や市制・町村制施行、昭和の大合併などの編制を繰り返し、旧長門市、大津郡三隅町・日置町・油谷町となり、その1市3町が平成17年3月22日に合併し、長門市としてスタートしました。

日本海沿岸一帯の豊かな漁場では、古くから捕鯨や漁業が盛んに行われ、多くの漁港が点在しています。北長門海岸国定公園に指定される海岸線では、日本海の荒波に浸食された岩と白い砂浜が出入りし、変化に富んだ雄大な自然景観を生み出しています。中でも紺碧の海上に奇岩怪石が連なる海上アルプス「青海島」、遙か日本海を展望できる「千畳敷」、海に浮かぶ「棚田」のシルエット、本州最西北端に突き出した「川尻岬」の緑青色の海などは、訪れる人々を魅了します。

また、長門市は温泉に恵まれ、風情も効能も異なる5つの温泉郷があります。清流にホタルが舞いカジカの声が響く「湯本温泉」、山間の湯治場「俵山温泉」、長閑に効能を楽しむ「湯免温泉」、美しい海を臨む「黄波戸温泉」や「油谷湾温泉」があり、多くの人々が訪れています。

一方、いのちと心を大切にした童謡詩人「金子みすゞ」、シベリヤ・シリーズで知られる画家「香月泰男」、長門出生伝承の残る劇作家「近松門左衛門」といった人たちの存在は、長門の文化を深く魅力あるものにしてくれます。歴史の舞台では大内氏終焉の地として語り継がれ、楊貴妃伝説など浪漫溢れる物語も数多くあります。

長門市ではこうした豊かな大自然とこれまで築かれてきた歴史や文化を融合したまちづくりを進めています。その力は『風』となり、市民活動の原動力として流れています。

金子みすゞを生んだ仙崎ではみすゞ通りができ、詩のイメージを思い抱いて散策することができます。学校ではみすゞ教育が行われ、豊かな感性が育まれています。『長門の新しい風』は、いつの日か第二のみすゞを誕生させるかもしれません。

みすゞの詩が生き続ける
純粹な心を見つけた。

星とたんぽぽ

青いお空の底ふかく、

海の小石のそのやうに、

夜がくるまで沈んでる、

晝のお星は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、

見えぬけれどもあるんだよ。

散つてすがれたたんぽぽの、

瓦のすきに、だアまつて、

春のくるまでかくれてる、

つよいその根は眼にみえぬ。

見えぬけれどもあるんだよ、

見えぬものもあるんだよ。

「金子みすゞ全集」(JULIA出版局)



美しい人、 みすゞさんに出会う道



金子みすゞ (1903~1930)

本名・金子テル。明治36年大津郡仙崎村（現在の長門市仙崎）に生まれる。大正末期優れた作品を発表し、『童話』の選者であった西條八十に「若き童謡詩人の中の巨星」と賞賛されるなどめざましい活躍をみせながらも、26歳の若さでこの世を去った。その優しさにつらぬかれた詩句の数々は、今もなお大きな感動をもって人々の心に広がり続けている。

写真提供/金子みすゞ著作保存会

金子みすゞが残した3冊の遺稿集、

そこには512編の詩が収められている。それらは児童文学者矢崎節夫氏（金子みすゞ記念館館長）の16年間にわたるみすゞがしの旅によって甦った。その詩が発表されて以来、多くの人たちがその詩想あふれる言葉に衝撃的な感動を受けてきた。

金子みすゞ（本名テル）は明治36年に大津郡仙崎村で生まれた。3歳で父庄之助と死別。母は妹の嫁ぎ先である上山文英堂書店の援助で大津郡最初の書店、金子文英堂を開いた。

テルは恵まれた環境の中で、瀬戸崎小学校、大津高等女学校へと進学する。優秀な成績に加え、備え持った優しい気質は誰からも愛された。豊かな感受性、温かいまなざしを持った観察力で周囲を驚嘆させた。

大正12年、20歳になったテルは、母の住む下関へ移る。母ミチは叔母亡き後に上山家の後妻となっていた。そこには養子となっていた弟正祐もいる。

テルの才能が開花したのがこの頃からであった。テルは商品館の小さ

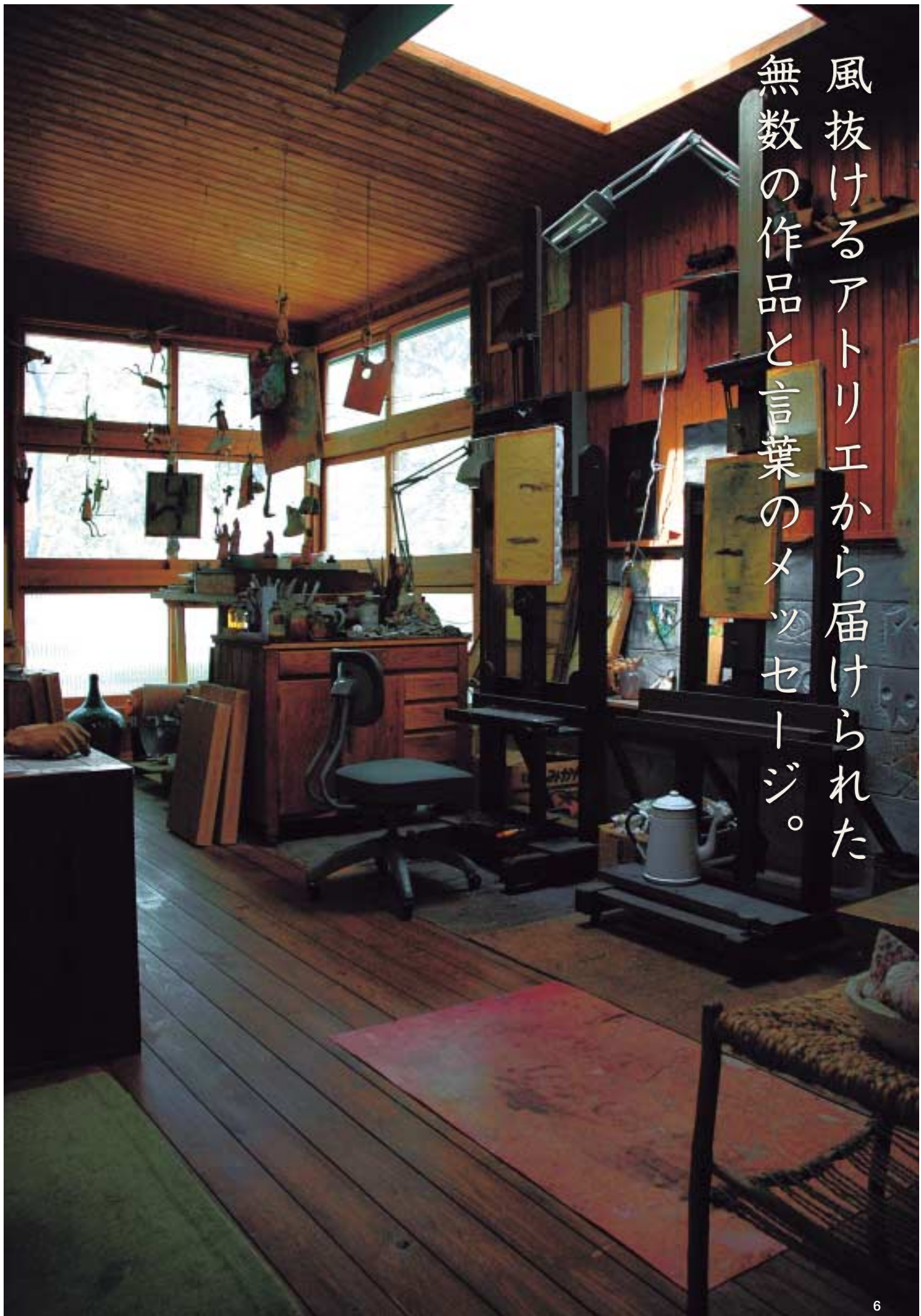
な上山文英堂の支店をまかされ、童話・童謡雑誌を読む機会を得た。やがて自ら詩を書き、4つの雑誌に投稿。詩はすべて掲載され、選者の西條八十に絶賛された。童謡詩人「金子みすゞ」の誕生である。

みすゞの童謡は、西條八十と読者に支えられ次々と誌上を飾った。少女期に育まれた感性は日本の童謡界に薫風を送り、みすゞにとっても充実した日々、将来にわたって輝く季節を予感させる時であった。そして23歳で結婚した。しかしその結婚は童謡詩人としてのみすゞに暗い影を落とした。享年26歳、幼い一人娘ふさえを母に託して命を断った。

3冊の自筆による詩集は弟正祐と西條八十に託されたまま時を経た。昭和57年に初めてその存在が明らかになり、昭和59年に全集となって出版された。

仙崎に「みすゞ通り」がある。大正・昭和期のノスタルジーと、みすゞを愛する人たちの心がここに流れている。JR仙崎駅から北へまっすぐ通る道沿いには、みすゞの詩を書いた木札があちこちに飾られている。どれも通りの人たちが作ったものだ。ここにはみすゞの生家もあり、童謡に出てくる場所もある。復元された金子文英堂のそばには「みすゞ記念館」が建つ。通りの先には、みすゞの眠る遍照寺がある。

風抜けるアトリエから届けられた
無数の作品と言葉のメツセージ。





香月泰男 (1911~1974)

洋画家。三隅中久原生まれ。東京美術学校（現東京芸術大学）在学中に「雪降りの山陰風景」で国画会に初入選。昭和18年に召集され満州に渡る。昭和20年に捕虜としてシベリアに抑留され、過酷な体験を経て昭和22年に復員。シベリアでの体験が「シベリヤ・シリーズ」を生み出し、昭和44年に第1回日本芸術大賞を受賞。昭和49年3月8日に心筋梗塞のため自宅で急死。享年62歳。



画家、香月泰男の アトリエで感じる時間

ストープの上で三枚の鳥の羽根がまわり、空中ブランコ乗りや道化師、猛獣使いなどのサーカス人形が綱の上で風に揺れていた。そこは、香月が一日のほとんどを過したというアトリエである。

豊かな創造性は、香月独自の世界観を造り出し、見る人を惹きつけてやまない。山口県立美術館にあるシベリヤ・シリーズは、香月の画家としての生命を感じさせるが、ここ長門三隅に建つ香月泰男美術館では、もうひとりの人間、シベリヤ・シリーズを生み出した愛の原点を教えてください。絵を描くことの極限の動機が切実に伝わってくる。

イーゼルの背後の壁に「一瞬に一生をかけることもある。一生が一瞬に思える時があるだろう」と、キャンバスに書いた文字がくっきりとあった。

香月泰男美術館の壁面いっぱい、シベリヤ・シリーズのうちの「避難民」がレリーフにされている。香月の心にはいつも、凍てついたシベリアで死んでいった友の記憶が鮮

明に残っていた。夜になると、その一人ひとりの顔が浮かんできたという。香月は彼らの記憶をとどめるために絵を描き続けた。黒く塗込められたキャンバス。そこには想像もつかない極寒の大地がある。

香月は戦争という悲惨な体験を、多くの作品から教えてくれる一方、ごく日常にあるものへの愛しかたを気づかせてもくれる。戦争と平和の狭間に生きてきた人の強いメッセージがある。「一瞬が一生」と自身の心に刻んだ言葉の周囲には、香月が「絵を描くより面白い」といったブリキの玩具や周囲で拾ってきた木で作った椅子、海岸から持って帰った石に彫った鳩など香月の自由な世界が広がっていた。今、それらがすべて美術館にある。





平成12年6月、第1回なごと近松実験劇場が開演され、平成17年11月まで10回公演された。



近松門左衛門 (1653~1725)
江戸時代中期の浄瑠璃・歌舞伎台本作者。本名は楳杜(杉森)信盛。号に巢林子、平安堂などがあり、幼名を平馬などと呼ばれた。武士の子であったが、文学を好み、20代後半から浄瑠璃の台本を書き始め、30歳を過ぎてから、歌舞伎役者坂田藤十郎のために脚本を書いた。井原西鶴、松尾芭蕉とともに文学史上に大きな位置を占めている。作品は、代表作「曾根崎心中」、「心中天網島」、「冥土の飛脚」などを始め130編にのぼる。

近松門左衛門を 生み出した長門の風土

楳杜信盛、これが東洋のシェイク

スピアといわれ、浄瑠璃や歌舞伎で

日本が世界に誇る劇作家近松門左衛

門の本名である。これまでこの名を

めぐる近松の出生地について、長い

間、論議されてきた。

長門市東深川江良では「江良はよ

いとこ近松生んで、柿もよいとこ、

えらいとこ」と語り継がれている。

そこには長州藩家老楳杜家ゆかりの

楳杜屋敷跡があったといい、地元で

は近松屋敷と呼んでいる。

現在、長門市では近松出生伝承を

新たな郷土の文化として発展させ、

情報発信に結びつけている。なごと

近松実験劇場では、近松の作品の中

からこれまで埋もれていた名作を現

代劇にする挑戦も行ってきた。そう

した活動の背景には、古典芸能や民

俗芸能を保存する地元の人たちの熱

意がある。

長門に近松出生説が強く結びつく

のも、野外劇場の赤崎神社楽棧敷や

俵山女歌舞伎といった独自の文化を

継承してきた風土があるからかもし

れない。



近松和紙人形(内海清美作)





村田清風記念館内にある蠶づくりを再現したもの。村田清風は藩が抱えた8万貫の負債を返済するために四白政策を振興した。



村田清風 (1783~1855)

天明3年、長門国大津郡三隅村沢江(現在の長門市三隅下沢江)に生まれる。藩主・毛利敬親に抜擢登用されて長州藩天保改革の第一人者として活躍。5人の藩主に仕えて50年、行政官の超先達であり、その抱負、学識の深さは時代を超えていた。清風が期待した周布政之助が藩政改革を継承し、更に吉田松陰、高杉晋作、木戸孝允と輩出する藩革新派の原動力となった。

維新回天の礎、 郷土の師、村田清風

改革の嵐が吹き荒れる幕末期、長州藩もまた藩政改革を迫られていた。13代藩主毛利敬親は、村田清風を登用して藩の財政改革を命じた。藩は負債を抱え、この返済のために清風は、儉約の徹底、家臣の負債整理と士風の一新、四白政策(紙・蠟・米・塩)の振興を行った。さらに軍備の改革にも着手。江戸に武器庫を建設し、萩では海岸防備等の訓練をした。その結果、藩の財政は立て直され、藩士の士気は高まった。これを長州藩の「天保の大改革」といい、後に雄藩となる基礎を築いた。大役を成し遂げた清風は63歳で職を辞し、三隅山荘に帰り隠居しながら私塾「尊聖堂」を開いて人材の育成に尽くした。その後藩主より乞われて出仕するが、中風に倒れて73歳で生涯を閉じた。

その後継者となったのが藩の革新的存在となり、後に俗論党に抗して自刃した周布政之助である。三隅山荘の学風は、後の「松下村塾」や「育英館」に及び、改革の精神は吉田松陰、高杉晋作らへ継承された。



三隅山荘



旅する長門

金子みすゞがこよなく愛し、画家香月泰男が「わたしの地球」といって離れなかつたふるさと長門。

北浦と呼ばれる長門一帯は、温泉を有した景勝地として知られ、古今東西、多くの人々が訪れた所でもある。

海岸線をひた走れば、緑青色の海に心を奪われていく。大陸との間に広がる紺碧の海原を前にすると、この地に残る伝説・歴史・民俗のルーツをその波に問いたくなる。

深山の谷間に沿って行けば、山間にぽっかりと温泉郷が現れる。次々と感動させてくれる長門の旅は、雄大で神秘的な旅のルートになる。



大浜海岸から北東を見る。鯨は入り組んだ向津具半島に沿って南下した。

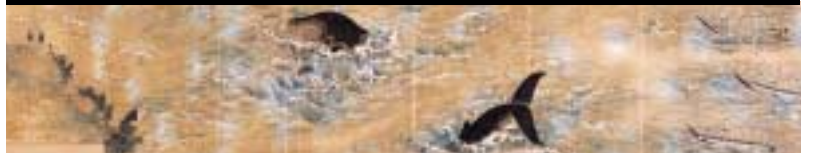
あなじ 北西風の海へ 鯨のいた風景

北浦の古式捕鯨

冬が近くなると、長門では北西からの季節風アナジが吹きはじめ。下り鯨が日本海沿岸を通過して南下する季節である。

中世以降「北浦」と呼ばれた沿岸海域がこの下り鯨の通路となり、古くから寄り鯨や流れ鯨を捕まえていた。弥生時代の遺跡からは鯨の骨が見つかっている。

捕鯨が盛んになったのは17世紀末、江戸時代である。長州藩では、





古式捕鯨を再現した通くじら祭



イカ釣り船の出航する季節が到来すると、港の家々に干しイカが並ぶ。



野波瀬。ここから通浦へと鯨が入って行った。



鯨まつりでは唄いつがれてきた通の鯨唄が、真夏の浜に響く。浦人たちの鯨への感謝と憐憫の情が切実に伝わってくる瞬間である。

須佐（萩市）、奈古（阿武町）、通・仙崎・黄波戸・津黄・立石・川尻（長門市）、島戸・和久・矢玉（下関市）に鯨組が設置され、網捕り式と呼ばれる勇壮な古式捕鯨が始まった。

漁期は10月から翌年3月としていた。網捕り式とは、網に追い込まれた鯨が動けなくなったところを至近距離から銚を放ち、寒風の海中を泳ぎ鯨の背に登り、急所を剣で突くのである。こうした捕鯨の指揮と鯨の刺殺をするのがハザシと呼ばれるプロフェッショナルで、死者や怪我人さえ出る命がけの仕事であった。

ハザシの多くは肥前の神集島、呼子、名護屋などから高給で迎えられた。勇猛果敢な彼らは、三世紀の中国における『魏志東夷伝』に登場する「倭の水人」の末裔だといわれている。



くじら資料館は平成5年に開館した。ここには、鯨とともに生きてきた漁師の写真や古式捕鯨の道具、鯨唄に使われた太鼓などが展示されている。資料館では通で暮らす人々の姿と鯨との深い絆を見ることができる。



鯨墓は通漁港を見下ろす小高い場所に建立されている。母鯨を失った子鯨は生きていけない。漁民たちはそれを痛く哀れみ、子鯨に戒名をつけた。



通、段の石組み

鯨と人との絆

長門市における捕鯨で際立つことは、捕獲した鯨に対する情である。

金子みすゞの詩にも描かれている漁師たちの鯨への情愛は、今も途絶えることなく伝えられている。

通地区では、捕獲した鯨の胎児を埋葬した「鯨墓」が残されており、毎年5月頃には鯨を供養するための法要「鯨回向」が行われている。

鯨法會

鯨法會は春のくれ、海に飛魚採れるころ。

濱のお寺で鳴る鐘が、ゆれて水面をわたるとき、

村の漁夫が羽織着て、濱のお寺へいそぐとき、

沖で鯨の子がひとり、その鳴る鐘をききながら、

死んだ父さま、母さまを、こひし、こひしと泣いています。

海のおもてを、鐘の音は、海のどこまで、ひびくやら。

「金子みすゞ全集」(JULEA出版局)

通、仙崎、川尻に残る鯨唄も鯨と人との関係を伝えてくれる。当時は過酷な漁の労働唄だったが、現在では精神文化を刻む貴重な伝統芸能となっている。



大津あきら (1950~1997)
 昭和25年長門市仙崎に生まれる。仙崎中学校、水産高校時代から海外のポップスミュージックに興味を持ちギター、ピアノを始めた。高校時代は水泳選手として活躍。慶応大学在学中に劇作家のつかこうへいや音楽家の坂本龍一と出会い、劇中歌の作詩・作曲を手がける。また、ロックバンド「ハウス」を結成し演奏活動を行う。バンド解散後は、つかこうへいのもとで劇中歌の作詩・作曲を続け、多くのアーティストに作詩家として作品を提供。代表作に「心の色／中村雅俊」、「for you…／高橋真梨子」、「輝きながら…／徳永英明」、「約束／渡辺徹」などがある。

「漁場抒情」 少年

作詞・作曲・歌 大津あきら

もう遠い昔の事だけど
 僕はこの町で生まれ育つた
 澄んだ海と青い空に
 僕はきつと満足していた

まわりの人を気にすることなく
 毎日毎日手ぶらで過ごした
 君がいなくて悩むことも
 苦しむこともまったくなかった

子供たちは笑いながら
 町中ぐるりと駆けめぐり
 魚は泳ぎカモメは飛んで
 誰もが皆んな思いでをつくった

そしていつか君と出会って
 世界はまるで変わってしまった
 冷たい風は走り抜けるし
 低い雲まで背負ってしまおうし

夜をまたいで君の影が
 何度も何度もしのび寄って
 君との景色をひろげながら

JASRAC 出06026866601



深川湾

ふるさとの海

仙崎で生まれ育った作詞家・大津あきらも同郷の金子みすゞと同じようにふるさとの海を愛した。

なかでも仙崎や青海島から眺める海は、彼の創作の原点であったという。そこからは、陽が昇り、夕陽が沈むのが見えていた。その輝く波間を行き交う漁船は彼の心を強く捉えていた。美しいと思う風景が仙崎にあり、それが彼のふるさとであった。仙崎を「輝くまち、すなおな人々の住むまち」と話し、これこそ大津あきら「心の色」であった。

少年期の感性を仙崎の海に投影した詩は、回遊する魚たちが再び帰ってくるように、ふるさとを思う心の場所がこの地にあることを教えてくれる。



仙崎の花火



大日比の海岸。鯨はこの湾を通り、仙崎湾へと入っていった。



深川湾

北面に日本海の海岸線が延々と続く長門は、古代から漁業や捕鯨に暮らしたの糧を求めてきた所である。「鯨一頭捕れば七浦賑わう」といわれていた古式捕鯨も、やがて近代捕鯨（ノルウェー式）へ変わる。

明治32年、仙崎に国内最初の近代捕鯨の会社設立された。北洋漁業の始まりである。そして、いつしか長門の湾から鯨の姿が消えていく。しかし、鯨は長門の象徴として人々を魅了し、心の風景となっている。

今も長門の漁港を訪ねると、海洋に新しい夢を求める現在のハザシたちの姿に出会う。海を知る海士の姿を見る。その手前には太古から変わらない海の色があり、風と波に侵食された海の原風景がある

海に抱かれた長門の原風景



仙崎漁港



地域の発展を願って新しい漁業に取り組む。時代は捕る漁業から育てる漁業へと変わってきた。後継者づくりが海に生きる人々の課題だ。



油谷湾で行われているマグロの養殖



長門における捕鯨の最西、川尻岬



通にて。秋から冬の時期はシラス漁が盛んになる。天候が変わりやすい季節、その日の空模様を見ながら天日干しをする。



大寧寺境内に残された大内義隆が自刃する前に整えた姿見の池



大寧寺裏手にある大内義隆と主従の墓



秋の色に染まり、多くの人々を楽しませる大寧寺境内。

大内氏終焉の道

湯本温泉のすぐ近く、大内義隆主従の眠る長門大寧寺がある。境内には檜、杉、楠、紅葉などが繁り、苔むした参道を覆うように枝を張っている。山々に抱かれた寺に差し込む木漏れ日、季節ごとに色を変える木々、岩の間をさらさらと流れる清流、悲哀の寺は今、心やすらぐ散策の道となっている。

大寧寺は、応永17年（1410）に大内氏一族の長門守護代鷲頭弘忠

森を鳴らす風

歴史と伝説の道





湯本温泉恩湯



大寧寺に架かる盤石橋。江戸時代、毛利氏によって建造された自然石の橋。



大寧寺参道

湯本温泉の魅力となっているのが、街の中心を流れる音信川おんしんがわで、清流にホタルが舞い、かじかの鳴く声が響く。この音信川の切ない「恋伝説」が川の名前に由来したとある。ここでは毛利藩主が湯治をするとき、お茶出しや来客の世話をする湯女ゆんなと呼ばれる女性たちが仕えていた。湯女は叶わぬ恋に落ち、口に出せない秘めた思いを短冊にしたためた。それをそっと橋の上から音信を川面に流したと伝えられている。

湯本温泉の魅力を代表する大寧寺の縁は深く、応永34年（1427）に寺の定庵禅師によって発見されたといわれている。山口県を代表する温泉で、江戸時代には毛利藩主が湯治のために度々訪れた。

創建によるもので、西の高野と呼ばれて栄えた曹洞宗の古刹である。寺は大内氏の庇護のもと、この地方における文化の中心地となった。大内氏は対外貿易によって財を築き、中国地方に勢力をのばした守護大名であった。足利幕府からは絶大な信頼を得、山口の館に京の文化を招き、中世の時代に燦然と支配力を世に見せてきた。しかし、天文20年（1551）、大内義隆の時代、家臣陶晴賢の謀反に遭う。この地まで逃れてきた義隆は、家臣とともに自刃。寺はこの時焼失し、後に毛利氏が再建した。



熊野山公園から俵山温泉街を望む。山々の稜線が重なり合う。



古くから湯治客の絶えない俵山温泉。山間のひなびた温泉郷は訪れる人たちをほっとさせてくれる。



長門の山々を望む。

里山を抜けて温泉郷へ

霧の立つ深閑とした森、のどかな里山の風景。大寧寺を経由する湯本温泉と俵山温泉に続く道筋は、中国山脈の北西端へ連なる山々がそびえている。

俵山温泉はそんな里山の奥深くに忽然と現れ、軒を重ねるように建つ旅館の間の狭い通りを湯治客が行き交うのである。土産店では次々と焼き上がる三猿まんじゅうが並ぶ。1000年前に白猿が見つけたと伝えられる湯は、今もポコポコと湧いている。ほとんどの旅館は内湯がなく、共同浴場には、「町の湯」、「川の湯」、「白猿の湯」がある。

長門の歴史の道は温泉へつながる道でもある。このまま山林を抜ければ油谷湾温泉へ通じ、日本海へ出る。

向津具半島、楊貴妃伝説

向津具半島は、大陸との関わりを想像させる場所である。地名の白木は新羅から、久原は百済からともいわれ、また平家落人伝説も伝わる。照葉樹が繁茂する向津具はミステリアスな半島である。

二位ノ浜に残る平家伝説では、壇ノ浦で幼い安德帝を抱き海へ身を投じた二位尼の亡骸が潮に乗ってこの浜に流れ着いたとある。遠く離れた壇ノ浦からどのようにか不思議さはあるが、玄界灘から対馬海流に乗っ



久津港を見下ろす地に、楊貴妃の墓と言いつたされてきた墓がある。



二位ノ浜には、ハマユウの咲く中に「二位局碑」と書かれた石碑が建っている。



楊貴妃の里



楊貴妃最期の地、馬嵬坡（ばかい）に立つ像と同じ白亜の楊貴妃像。

てきたという説になる。平家伝説は向津具の各所にあり、平家の墓といわれる五輪塔が随所にある。

真偽は別にして、楊貴妃伝説については、向津具の二尊院に残された2冊の古文書に書きとめられた伝承がもとになっている。約200年前に二尊院の福林坊55世住職惠学和尚が古老から聞きとった内容とある。その時代は唐の天宝15年（756）7月。向津具半島の唐渡口に、流れ着いた船の中に横たわる気品のある美しい女性。侍女は泣きながら『この御方は唐の天子、玄宗皇帝の愛妃楊貴妃と申される。案禄山の乱により処刑されるところを、皇帝のお嘆きを見るに忍びないで近衛隊長が密かにお命を助け、この船で逃れさせ、ここまで流れ着きました』と話したという。

積み重なる墓群は久津港を見下ろす丘にあり、中央の一段と大きい五輪塔が世界3大美女の一人、楊貴妃の墓と伝えられている。



仏岩



花津浦



青海島自然研究路から眺める青海島

東山魁夷が描いた海

昭和43年に完成した皇居宮殿・長和殿波の間に青海島をモデルにしたといわれる縦約3・8m、横約14・3mの大壁画がある。

「朝明けの潮」と名付けられたこの絵は、日本画家・東山魁夷画伯によって制作されたもので、青海島の瀬叢がモチーフになっている。画伯はこの絵の制作にあたり、日本の海のイメージを求めて1年間をかけて全国の海を巡ったという。画伯は、

コバルトの風を呼ぶ

海上アルプス 青海島



静ヶ浦 お静伝説

青海島にひとつの伝説が残っている。美しい娘が人魚になったというものの悲しい話として語られてきた。

長者のひとり娘お静は島でも評判の美人だった。ある日、娘かわいさに長者は島の漁師に頼んで人魚を捕まえ、その肉を食べさせた。それからというものお静は全く年をとらなくなってしまった。いつまでも若く美しいままのお静、だが婚をとっても先立たれるばかり、悩んだ彼女は数百年生きた後、海に身を投げそのまま人魚になったという。

お静が人魚になったという場所は今では静ヶ浦と呼ばれている。日本海の人魚の話は、遠い北欧の人魚姫の物語を連想させる。青海島めぐりはメルヘン紀行の旅ともなる。



十六羅漢



変装行列



瀬叢

その2年後の昭和46年から奈良唐招提寺にある襖絵「濤声」の制作を始めた。日本の海の集大成だというこの絵にも青海島の風景が見られる。画伯にとって日本の海のイメージは青海島であったのかもしれない。

青海島は、国の名勝および天然記念物に指定される北長門海岸国定公園の代表的な景勝地である。島の南は波穏やかな内海の仙崎湾と深川湾。北には、日本海の荒波によって侵食された断崖絶壁や洞門、数多くの奇岩怪石が約16kmにわたって連なる豪快な風景が開けている。

青海島の探勝には、遊覧船で島を一周する海上コースと、北海岸沿いに続く青海島自然観察路を歩きながら眺める陸上コースがある。島めぐりは、日本海の風と波が創造した自然の芸術を堪能する旅である。



風と雲の生まれる千畳敷

四方から吹く風、海原をよぎり、平野から吹き上げる風は千畳敷に立つものを圧倒する。巨大な風車が天空にそびえて悠々と回る。

日本海の絶景がここから向津具半島まで続く。日置から油谷に連なる見事な棚田の風景である。特に「日本の棚田百選」に選ばれた油谷東後畑地域の棚田は写真家を魅了させている。季節ごとに、また一日の時間を刻むごとに変化する風景、日本海を

棚田を守る人々

風の丘から 棚田のふるさと





日本海の風を受けて回る風力発電。棚田は新しい時代迎えた。



棚田で営む人々の暮らしを支えてきたため池。



棚田と漁火



丁寧にハゼかけされた稲。

背景にした一度きりのチャンスを狙ってカメラを構える。

しかし地域の人たちにとって、棚田を守っていく不安はぬぐえない。祖先から引き継がれてきた遺産が後継者不足で荒廃しかけているのだ。

そうした危機を乗り越えようとして旧油谷町では、平成16年に棚田保護条例を制定した。その後、市民で取り組んだのが、平成18年に発足した「ゆや棚田景観保存会」である。保存会では、都市住民との交流を通して棚田を利用する計画なども立てている。

日本海の大自然と調和した棚田、漁り火の海と幾重にも重なる水田の風景、それらは美しい以上に暮らしの糧であり、かけがえのないふるさとなのである。



江戸時代の登り窯は文化財に指定されている。



水車を使って土を砕くサコンタは良質の粘土を作る。三ノ瀬の萩焼はこのように土づくりから始まる。



サコンタの水車小屋



窯元は一心に温度を見つめる。窯を焚き始めて2日目の朝を迎えた。

登り窯に火が入ると、まる2日かけて薪が焚かれる。雪空の夜明け前、深川湯本三ノ瀬の坂倉新兵衛窯では窯元を含めて7人が交替しては一心に薪を投げ入れている。窯元の坂倉氏は温度計と煙口を見ながら指示を出す。およそ3m幅に2列、天井の高さまで積まれていた薪が次々と炎に変わる。窯の中では炎を受けた釉薬が時間をかけてゆつくりと窯変していく。

三ノ瀬そうのせのけむり

炎と風のうた 萩焼の里 長門深川三ノ瀬





窯を焚き始めて2日目の朝



広い窯の奥から手前まで均等に、火の中に薪が投げ込まれていく。



第15代坂倉新兵衛氏



萩焼の歴史

長門深川湯本三ノ瀬に窯が築かれて360年近くになる。承応2年(1653)に萩から移り、毛利藩御用窯として開窯した。現在では坂倉窯、坂田窯、新庄窯、田原窯の4家が作陶している。

十六世紀末、西国の大名たちは朝鮮陶工たちを競って招き、窯を築いたのだった。萩焼もまた、慶長9年(1604)毛利輝元が萩に入った折、広島からともに移った朝鮮陶工の李勺光と李敬に萩松本村中ノ倉(現在の萩市椿東中ノ倉)に窯を築かせて藩の御用窯としたのが始まりである。

その後、長門深川三ノ瀬(現在の長門市深川湯本三ノ瀬)に分窯され、長門の窯を「深川焼」、松本の窯を「松本焼」と称した。両者を「萩焼」と呼ぶようになったのは近代になってからである。

明治以前、藩の御用窯は長く保護されて大勢の弟子たちがこの地にいた。維新以後、多くの陶工たちは、藩主のいなくなった窯元から別の地へ移動してしまった。大正時代には7軒の窯元があったという。

萩を離れて築かれた三ノ瀬の里には、今も、凜とした伝統と藩主に愛用された深川焼の温もりが残っている。谷間に一歩入ると、そこだけ藩政時代の空気がすっと流れていく。



俵山女歌舞伎



向津具の楽踊り



俵山子ども歌舞伎

古典芸能の原形を見る

古代ギリシヤの劇場を連想させる
 円形の野外劇場、赤崎神社楽棧敷は
 中央の低い場所が舞台になっている。
 昭和38年に国の重要有形民俗文化
 財に指定された。楽棧敷は、慶長
 元年（1596）、北長門一帯に牛
 馬の疫病が流行したとき、赤崎神社
 に平癒を祈願した村人が、その立願
 成就を祝って楽踊を奉納した時につ
 くられたという。江戸時代後期には
 歌舞伎舞台もつくられ、観客たちは

新しい文化の風

伝統と創造のある風景



油谷こどもミュージカル (ラポールゆや)



湯本南条踊り



滝坂神楽舞



赤崎神社楽棧敷



各家の指定された座敷に座り、芝居見物を楽しんだ。長門独自の芸能文化があったのだ。

伝承から創造へ

長門における芸能文化への関心は高い。もともと俵山女歌舞伎や近松門左衛門出生伝承があり、古典芸能の土台があった。

俵山では地元の小・中学生に女歌舞伎を教えて保存につとめている。ルネッサながとでは、「ながと近松実験劇場」による近松門左衛門の名作を現代劇にした舞台を展開し、地方からの文化を発信してきた。さらに歌舞伎や浄瑠璃、海外の民俗芸能などを上演し、幅広いジャンルで舞台芸術への関心を高めてきた。ラポールゆやでも、平成14年に発足した油谷こどもミュージカルを地域で応援している。こうした市民の積極的な文化活動が、長門での新しい文化の創造に大きく貢献している。

長門の新しい風

ほうじょう

豊饒の海と大地に、笑顔行き交う、

ゆめ

未来のまち

この将来像は、長門市の恵まれた自然を活用しながら、農林水産業と工業、商業、観光を連携させた6次産業を華ひらかせ、産業の活性化を図るとともに、すべての市民が笑顔あふれるように、生活環境や福祉の充実に努め、未来に多くの夢をつなぐまちとなることを意味しています。長門市では、この将来像の実現に向けて、次の5つの基本目標をめざして、まちづくりを進めています。

- 1 自然と人がやすらぐ安全なまち
- 2 6次産業が栄えるまち
- 3 生きがいと笑顔があふれるまち
- 4 個性豊かに人が輝くまち
- 5 みんなで創り、自分発信するまち

※6次産業

第1次産業、第2次産業、第3次産業を融合させた新たな産業のたとえ。

1+2+3=6であることに由来しています。

自然と人がやすらぐ 安全なまち

美しい海岸線、ゲンジボタルやエビネ、ハマユウ等の貴重な動植物など、恵まれた自然は地域の誇りです。都市化や地域開発が進み、地球環境が悪化する中、人々にやすらぎと潤いを与える自然環境を後世に受け継いでいくことは重要な課題です。

自然と共生した地域社会、リサイクルなどによる循環型の地域社会の形成をめざして、恵まれた自然環境の保全と活用を図るとともに、市民が快適に生活できるまちづくりを進めます。

また、防災・防犯・交通安全対策などを強化し、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

主要施策

●循環型社会の形成

自然環境の保全
環境衛生の推進
地球環境対策の推進

●一体的な景観の形成

景観の保全・創出
市民参加の環境・景観づくり

●都市機能の強化

都市基盤の整備
計画的な土地利用の推進

●総合交通対策の推進

道路整備の推進
生活交通網の充実
交通安全対策の推進

●住環境の整備

住宅供給の促進
公園・緑地の整備
上下水道の整備

●防災・防犯体制の強化

自然災害防止対策の強化
防犯体制の強化
消防・救急体制の強化

●情報通信網の整備・充実

高度情報基盤の整備・充実



6次産業が栄えるまち

世界的な産業再編、景気低迷の長期化などにより、国内産業は厳しい状況が続いています。こうした状況を地域ぐるみで打開するため、地元産業界をはじめ、高等教育機関や研究機関と連携、また、U・J・Iターン者の技術・知識を生かしながら、21世紀の多様で高度な消費者ニーズに応えられる6次産業を中心とした、活力ある地域産業の育成に努めます。

そのために、豊かな地域資源を生かしながら農林水産業と商工業を融合し、新たな需要の創造を図るとともに、観光資源のネットワーク化により、体験・滞在・反復型の観光振興を図り、すべての市民がはたらりと働く、活力に満ちたまちづくりを進めます。

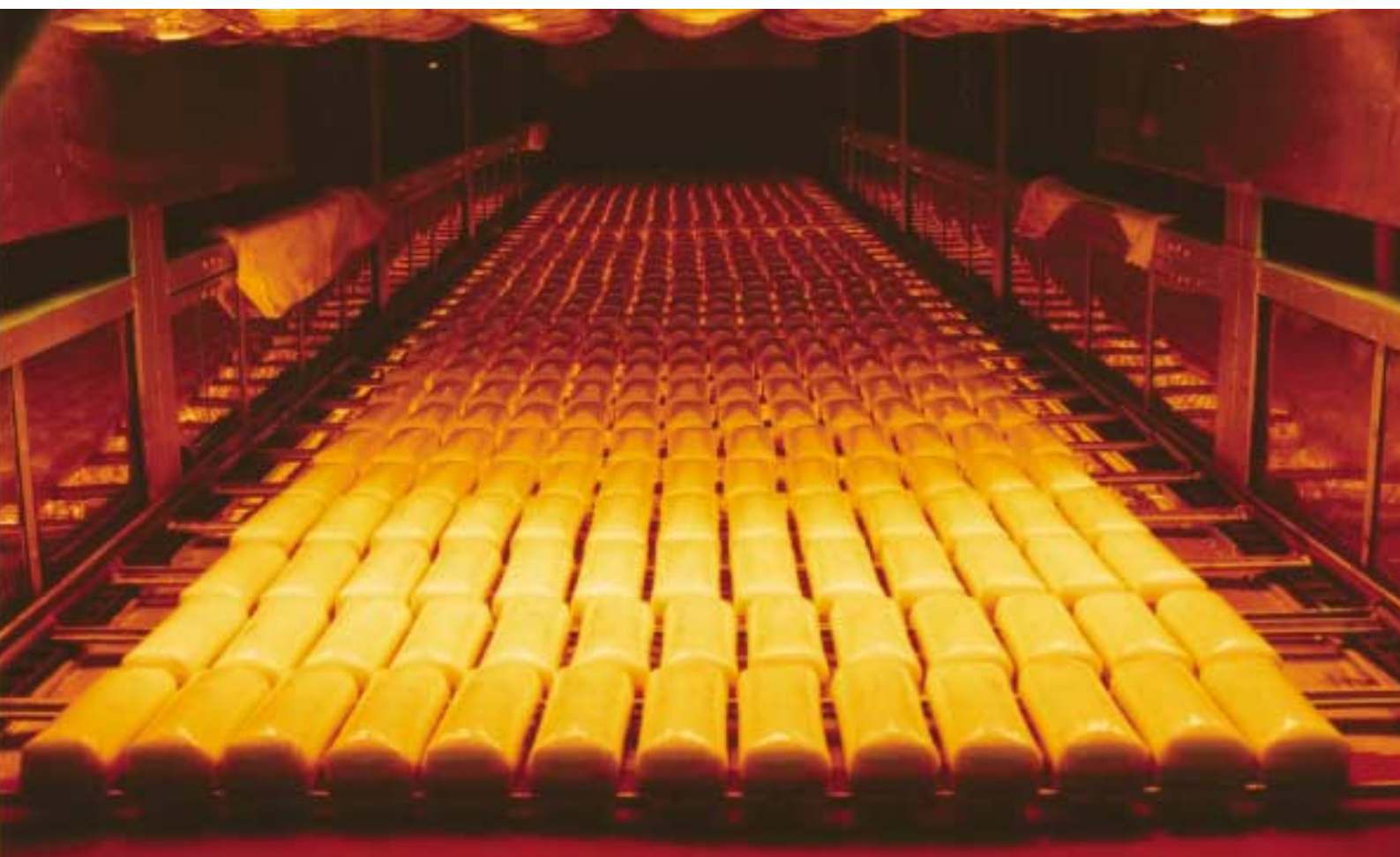
主要施策

● 6次産業づくりの推進

- 農林業の振興
- 水産漁業の振興
- 商工業の振興
- 産業連携の推進

● 体験・滞在・反復型の観光地づくりの推進

- 体験型観光の推進
- 滞在型観光の推進
- 反復型観光の推進





生きがいと 笑顔があふれるまち

少子高齢化が進む中、21世紀を担う子どもたちがすこやかに生まれ育つよう、子育ての社会的な支援と、生涯にわたって住民が健康で安心して暮らし、積極的に社会参加できる環境づくりが求められています。

まちぐるみで健康づくり・生きがいづくりに取り組み、ライフサイクルに応じて、質・量ともに充実した保健・医療・福祉・介護のサービスが受けられるまちづくりを進めます。

また、ボランティア活動の活性化を促進し、高齢者や障害者などを地域で見守り、子どもを育て、市民一人ひとりが生きがいに満ち、笑顔あふれるまちづくりを進めます。

主要施策

- **まちぐるみ健康づくりの推進**
自主的な健康づくりの推進
地域保健・医療の充実
地域支援体制の充実
- **高齢者施策の充実**
高齢者福祉サービスの充実
介護保険の充実
生きがいづくりの推進
- **障害者施策の充実**
障害者福祉サービスの充実
自立と社会参加の推進
- **児童福祉の充実**
保育サービスの充実
地域子育て支援の充実
- **地域福祉の推進**
地域福祉サービスの充実
国民健康保険・国民年金の充実





個性豊かに人が輝くまち

ゆとりと個性を尊重する教育、生きる力を育む教育へ向けた教育改革が進む中、心の豊かさを実感できる生活の実現が求められています。

国際的な視野にたって、これからの社会を担う子どもたちの育成を図るとともに、子どもから高齢者まで、生涯を通じて学習し、豊かな交流が生まれるまちづくりを進めます。

また、地域の伝統的な歴史や文化を継承するとともに、地域の個性を活かした新たな文化を創造し、市民一人ひとりが個性豊かに輝くまちづくりを進めます。

主要施策

●学校教育・幼児教育の充実

就学前教育の充実
学校教育の充実
地域教育の推進

●生涯学習の推進

生涯学習・スポーツの推進
人材・団体の育成

●個性が輝く文化の創造

伝統文化の保存・継承
文化・芸術活動の振興



みんなで創り、 自分発信するまち

活力と魅力あるまちをつくるためには、市民一人ひとりが主人公となることが重要です。

市民一人ひとりが、まちづくり活動に積極的に参加しながら、市民と行政がともに考え、ともに行動するまちづくりを進めるとともに、市民一人ひとりが自分発信できるまちづくりを推進します。

主要施策

●自分発信のまちづくりの推進

- 男女共同参画の推進
- 市民活動の活性化
- 地域コミュニティの活性化

●市民と行政のパートナーシップの確立

- 市民参加の仕組みづくり
- 情報の共有の推進
- 効率的な行政運営の推進
- 財政運営の効率化
- 広域行政の推進





① **いこいの森三隅**
自然と触れあえる森林公園。見晴らしの丘では日本海が一望でき、青海島や松島などの風景を楽しむ。野鳥や水辺の景観を楽しむコーナーや散策道、休憩施設なども整備され、市民の安らぎの場となっている。

② **長門温泉郷五名湯 湯免温泉**
その昔、ウサギが矢傷を癒したとも弘法大師が一夜夢想により発見したとも伝えられる温泉郷。通常の4倍のラジウム含有量を誇り、美肌、神経痛、皮膚病等に効果がある。泉質はアルカリ性単純弱放射能温泉。
③ **湯免ふれあいセンター**
大浴場・露天風呂・打たせ湯・気泡風呂・サウナ・カラオケ等を完備した多目的施設。

④ **香月泰男美術館**
香月泰男の代表作シベリヤ・シリーズの原画をはじめ、素描やオモチャなど、画伯の没後香月家で大切に保管されていた作品が収蔵・展示されている。館内には生前のままのアトリエが復元され、年3回開催される企画展ではシベリヤ・シリーズとは違うもう一人の香月に会うことができ。
香月ロード
県道秋芳三隅線から香月泰男美術館へ向かう市道湯免辻並線には、香月画伯のつくったオモチャをかたどった5体のミニチュメントが立ち並び、四季を彩る街路樹とともに、訪れる人を美術館へ誘う。

⑤ **松島キャンプ場**
磯から広がるボーダーレスの青い海と空。風光明媚な松島海岸と隣接し、海水浴やバーベキューも楽しめるキャンプ場。宿泊、日帰りに利用可。

Nagato roads, going east to west 長門路、東から西へ



⑪ **青海島**
国の名勝および天然記念物に指定される北長門海岸国定公園の代表的な景勝地。日本海の荒波で浸食された断崖絶壁や洞門、数多くの奇岩怪石が連なる海岸線は「海上アルプス」と称される。海岸風景の探勝には、遊覧船で島を一周する海上コースと青海島自然研究路を歩きながら眺める陸上コースがある。

青海島自然研究路
眼下に青海島の雄大な景観を眺めながら自然を観察できる散策道。総延長1900mで、随所に植物群落や名勝についての解説板が設置されている。夏の夕陽と漁り火、冬の逆巻く怒涛が海面を真っ白に染めて岩々に打ち砕ける様は絶好の眺め。

⑫ **青海島キャンプ場／青海島海水浴場**
青海島陸上観光の拠点、船越にある通年開設のキャンプ場。併設の青海島海水浴場では海水浴やダイビングなどのマリッジ・バーが楽しめる。テントサイト、シャワー室、休憩棟、トイレ、食堂などの施設を設置。

⑬ **西園寺／上**
元禄9年(1696)の創建と伝わる浄土宗の古刹。世界最初の日曜学校の発祥地としても有名。本堂と山門は県の有形文化財建造物に指定されている。

⑭ **夏みかん原樹／下**
大日比にある日本のナツミカンの原樹で国指定の史跡および天然記念物。安永年間に西本チヨウという女性が海岸に流れついた果実から種子を播いたと伝えられている。

⑮ **王子山公園**
金子みすゞが仙崎八景の一つとして詠んだ王子山。仙崎半島をはじめ市街地を一望でき、桜の名所としても知られる。

⑯ **青海島高山オートキャンプ場**
青海島の最高峰高山の中腹に位置する海と山を楽しむことができるキャンプ場。眼下に沈む夕陽や海上いっばいに広がる漁り火が楽しめる。



⑥ 野波瀬つりデッキ
仙崎湾にボッカリと浮かぶ海上釣りデッキ。トイレも完備されたデッキでは、チヌやカレイ、キスなどが釣れ、老若男女を問わず、のんびりと太公望を楽しむことができる。

⑦ 村田清風記念館／上
毛利藩の藩政改革で手腕を揮った郷土の先賢村田清風と周布政之助の功績と人柄を遺品や資料を通して紹介している。三隅地区に残る民俗資料も展示。
三隅山荘（村田清風旧宅）／下
明治維新の基礎づくりを成し遂げた村田清風の旧宅。記念館近くの大蔵山にある墓所とともに国の史跡に指定。柴田式初倉や湯殿、馬小屋、尊聖堂等がある。

⑧ 早川家住宅／上
江戸時代の網元の邸宅で国指定の重要文化財。18世紀後半の建築といわれ、白壁の土蔵造りで一部2階建。壁には鯨の油が塗られていると伝わる。

⑨ 鯨墓／下
通漁港を見下ろす清月庵にある鯨の胎児の墓。元禄5年（1692）に建立され、高さ約2m。捕獲された母鯨を解体したときに出た胎児を村人が手厚く守ったもので72頭が眠る。国の史跡に指定されている。

⑩ くじら資料館
国指定重要民俗文化財の「長門の捕鯨用具」をはじめ、古式捕鯨についての資料を保存・展示する資料館。鯨と共に生きた漁師の写真や古式捕鯨の道具など、貴重な資料が鯨との深い絆を伝えてくれる。



⑬ 青海島シーサイドスクエア
大きな鯨のモニュメントが迎えてくれる青海島観光の拠点。海上アルプス青海島を一周する観光遊覧船の発着の場所でもある。また、仙崎港が引揚港であったことの歴史を刻む引揚記念碑が立つ。

⑭ 金子みすゞ記念館
みすゞが暮らした大正時代をイメージした館内は、新しく懐かしい雰囲気。金子文英堂やみすゞの部屋が再現され、彼女の遺品をはじめ、数多くの資料と映像でみすゞの魅力をあますことなく楽しめる。
仙崎みすゞ通り
JR仙崎駅から北に向かう約1kmの通り。お休み処や金子みすゞゆかりの地を示す標柱などがあり、各家の軒下にはみすゞの詩を木札にして掲示してある。また、毎年8月初旬に開催される「みすゞ七夕笹まつり」には、約300本の笹飾りが通りを彩り、みすゞが暮らした当時の雰囲気を醸し出す。

⑮ みすゞ公園
金子みすゞの詩に登場する木や草花が植えられ、6基の詩碑がある。頂上の「丘の上展望台」からは、王子山から見える風景とは違った仙崎を一望することができる。

⑯ ルネッサながと
西日本随一の舞台機構を有する劇場と2400人収容可能な多目的アリーナを併設した芸術とスポーツの拠点施設。江戸時代の芝居小屋をイメージしてつくられた劇場では、伝統的な雰囲気の中で新しい文化を感じることができる。





②④ 大寧寺
 応永17年(1410)、大内氏の支族、当時の長門守護代鷲頭弘忠の創建と伝えられる曹洞宗屈指の名刹。大内氏終焉の地として知られ、裏手には大内義隆主従の墓がひっそりと立ち並び、大寧寺川に架かる盤石橋は「防長三奇橋」の一つ。

②③ 長門温泉郷五名湯 湯本温泉
 応永34年(1427)、大寧寺の定庵禪師が座禅をしていたときに、住吉大明神からのお告げで発見したと伝わる古湯。江戸時代には藩主毛利公もたびたび訪れたという。湯のまちを流れる音信川(おとずれがわ)にはゲンジボタルが舞い、カジカの鳴き声が響く。泉質はアルカリ性単純温泉で胃腸病やリウマチ等に効果がある。

②② 只の浜海水浴場
 深川湾沿いに弓状にのびる1500mの海岸で、沖に青海島、東西に仙崎と黄波戸を望む遠浅で砂浜の海水浴場。毎年多くの海水浴客で賑わう。

②① 赤崎神社楽棧敷
 江戸時代中期にすり鉢状の地形を生かしてつくられた野外の棧敷席。全国的にも珍しい遺構で国の重要な民俗文化財に指定されている。毎年9月10日には湯本南条踊りや楽踊りなどの民俗芸能が奉納される。



③⑤ 長門温泉郷五名湯 油谷湯温泉
 美しい油谷湾を眼下に望む高台にある温泉。泉質はアルカリ性単純温泉で神経痛や皮膚病等に効果がある。

③④ 妙見山展望公園
 標高275mの頂上からは、波静かな油谷湾と波濤の日本海が一望できる視界360度の大パノラマ公園。夏には漁り火、遠くは見島や角島を望める。

③③ 龍宮の潮吹
 日本海から打ち寄せる波が水面下の洞窟と連なり音をたてて、30mも吹き上がる。飛び散るしぶきは太陽を反射して銀の砂をまくような光景が見られる。国指定の天然記念物および名勝。

③② 千畳敷
 標高333mの高台に広がる草原。眼下には大陸へと続く日本海を望む大広間。イカ釣りの季節になると海上一面に広がる無数の漁り火が楽しめる。
日置ウインドパーク
 千畳敷に隣接する風力発電所。千畳敷へと駆け上がる強い風が風車のエネルギーとなっている。



26 二位ノ浜海水浴場
白浜とコバルトブルーの海が調和した美しい海岸。浜には自生北限の地として知られるハマユウの群落があり、夏には一面に白い花を咲かせる。二位ノ浜の名の由来は、源平壇ノ浦の合戦で幼い安徳天皇を抱き海中に身を投じた二位の局が流れ着いたという伝説による。

28 長門温泉郷五名湯 黄波戸温泉
深川湾を挟み対岸に青海島、仙崎を一望できる高台にある温泉。露天風呂では、日本海を眺めながらゆつくりとくつろげる。泉質はカルシウム・ナトリウム塩化物泉で、神経痛や関節痛等に効果がある。

27 熊野山公園 / 下
依山温泉街を見下ろす高台にあり、ツツジとサクラの名所。特にツツジは洋種・和種合わせて約1万本が植栽され、4月下旬から6月下旬まで園内をカラフルに彩る。

26 麻羅観音 / 上
湯本大宰寺で果てた大内義隆の遺児が依山で捕えられ、男児であった証拠に男根を切り取られ殺されたのを里人が哀れんで社を建てたのが始まりとされている。子孫繁栄を願う参拝者が絶えない。

25 長門温泉郷五名湯 俵山温泉
平安時代中期、薬師如来の化身である白猿が発見したと伝えられ、古くから効能の高い療養本意の湯治場として知られている。泉質はアルカリ性単純温泉で、アルカリ含有量は日本有数、神経痛やリウマチ等に効果がある。



40 俵島
油谷湾の入口、向津具半島の突端にある小島。玄武岩の柱状節理からなり、直立、斜立、横臥とすばらしい景観を見せ、地質学上貴重な財産、国指定の名勝および天然記念物。

39 楊貴妃の里と二尊院 / 下
真言宗の古刹、二尊院の境内には楊貴妃の墓と伝えられる五輪塔がある。二尊院周辺は、中国の馬嵬坡にある楊貴妃像と同じ白亜の石像が建立され、中国風の異国情緒あふれる公園「楊貴妃の里」として整備されている。

38 川尻岬 / 上
長門市の最北端、本州最西北端にある岬。海に囲まれた岬周辺は、絶好の漁場で多くの釣り客が訪れ、夏はキャンプも楽しめる。西側には楊貴妃の漂着地と伝わる唐渡口がある。

37 大浜海水浴場
珊瑚礁のリゾートビーチさながらの白砂海岸。真夏の太陽と紺碧の海を求めて多くの人が海水浴やキャンプに訪れる。シーズンオフには日本海特有の波が押し寄せ、サーファーに最も人気のある海岸として有名。

36 伊上海浜公園 オートキャンプ場 / 上
自然に囲まれ潮の香りが満喫できるオートキャンプ場。波のせせらぎの中でキャンプを楽しむ。海辺はシーカヤックに適したフィールドで県内外から訪れる愛好者が多い。

伊上海浜公園 Y Yビーチ350 / 下
キャンプ場の西側にある砂浜の海水浴場。シーズン中はカメと潜水艦の遊具が浮かび、家族連れで楽しめる。

Nagato roads, going east to west



Ikoimori Misumi Park Yumen Hot Spring Kazuki Yasuo Museum of Art Matusima Camp Site Nobase Deck fishing Murata Seifu Memorial Hall



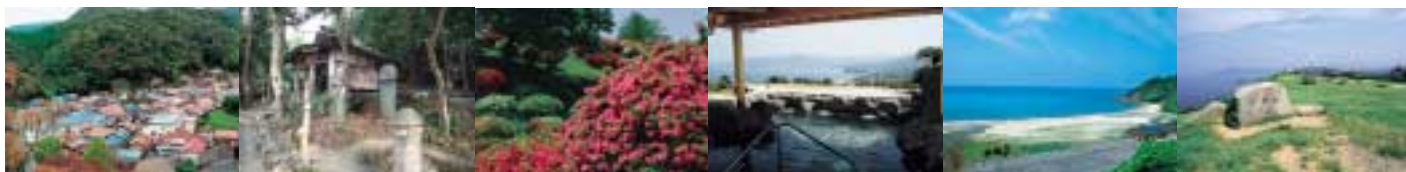
Misumi Villa (Murata Seifu's former residence) The old house of historically famous Hayakawa Family Whale Tomb Whale Museum Omijima Island Omijima Camp Site & Beach



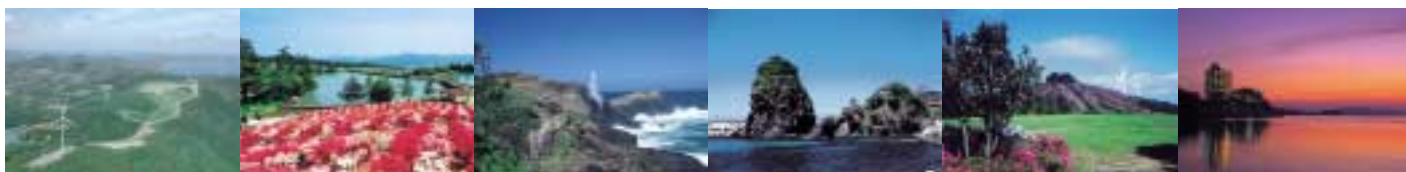
Saienji Temple The original tree of Natsumikan (Citrus natsudaidai Hayata) Senzaki view from Mt. Oji Omijima Takayama Auto Camp Site Seaside square Kaneko Misuzu Memorial Museum



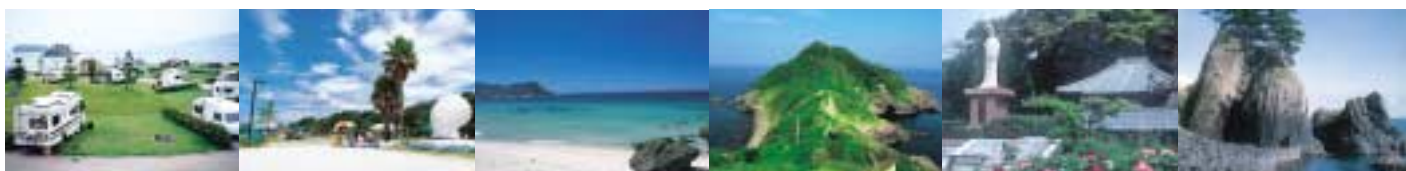
Misuzu Park Renaissa Nagato Gakusajiki (Spectators' gallery) Tadanohama Beach Resort Yumoto Hot Spring Taineiji Temple



Tawarayama Hot Spring Mara Kannon, goddess of Mercy Kumanoyama park Kiwado Hot Spring Niinohama Beach Resort Senjojiki Park



Heki Wind Park Sugamuta Park Ryugunosiofuki, Goddess of Mercy Tateishi Kannon Mt. Myoken View Park Yuyawan Hot Spring



Igami Auto Camp Site Igami seaside Park "YY Beach 350" Ohama Beach Kawashiri Cape Yang Guigei Park Tawarashima



from the Edo period called the Akasaki Shrine Amphitheater. It is circular, built like an ancient Greek theater. This theater was originally built to offer dancing at the shrine, but later it also staged other performances, including Kabuki. The style of theater is very unusual in Japan and, thus, is designated as national cultural property. Even today it is still used for dancing and other festive events.

Furthermore, there is a girls' Kabuki theater in Tawarayama. In 1851, Tawarayama Hot Spring was destroyed in a fire, and Kabuki was performed to appease the gods. After that, traveling actors, who came for that performance, began to settle in this area and established a local tradition of Kabuki. Even today, Kabuki is still taught to children, and wonderful children's Kabuki is often performed.

Two new theaters are Renaissance Nagato and Raporo Yuya. Nagato provides various types of performances here, from classical to contemporary.

p.28-33

Nagato's vision, A fresh breeze – A future city of smiling faces against a bountiful sea and land –



Nagato is experiencing a period of many changes. The future of Nagato will be furthered and secured by efforts on many fronts. The city industry will be strengthened with a focus on the development of the "sixth industry," combining agriculture, forestry, fisheries, manufacturing, commerce, and tourism. Nagato also will utilize community-building strategies to insure positive living environment and satisfied citizens.

Nagato city has developed a plan of action for building a stronger community, with five basic goals in mind.

1. A city protecting both nature and people
2. A city of flourishing "sixth industry"
3. A city with purpose and smiling faces
4. A city of individuality
5. A city of cooperative thinking and self-expression

Note: Primary industry refers to agriculture, forestry and fishing. Secondary industry is manufacturing. Tertiary industry means the service industries, such as commerce or tourism. "Sixth industry" is a unique concept that sums primary (first), secondary (second), and tertiary (third) industry—in other words, 1+2+3=6. This phrase describes the city's aim of achieving new industry through the fusion of the three basic industries.

1. A city protecting both nature and people

Nagato's spectacular natural environment is a source of immense local pride. The city is blessed with beautiful coastline and unique flora and fauna, such as fireflies, calanthe orchids, and crinum lilies. On the global level, the environment is suffering due to the

advance of urbanization and regional development. Thus it even more important to preserve the natural environment so that future generations can enjoy the peace of mind nature provides.

Nagato is striving to form a society that can coexist with nature by promoting conservation awareness and recycling programs. The city is also building a community founded on the security and safety of its citizens through strengthening crime prevention, disaster prevention, and traffic safety among others.

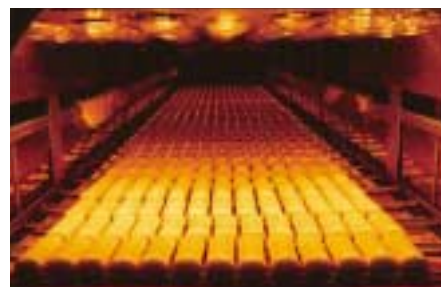


2. A city of flourishing "sixth industry"

Japanese industry is suffering from a combination of factors including worldwide industrial reorganization and prolonged economic stagnation.

In order to guide the city as a whole out of these conditions, Nagato is making efforts, in cooperation with local industrial circles, higher educational institutions, and research institutes. The city is also utilizing the skills and knowledge of all its citizens; those who have returned here to their birthplace, those born in other rural settings and those who moved here from major metropolitan areas. Nagato is fostering dynamic local industries based on the "sixth industry" model to meet the diverse, high-level needs of the twenty-first century consumer.

Fusing the primary, secondary, and tertiary industries to form a "sixth industry" will generate new demand and make full use of abundant local resources. The tourism industry will also be strengthened through the facilitation of tourist-resource networking. Nagato wishes to promote all types of tourism. Experience tourism allows visitors to find out what it is like to actually like to live in Nagato. Efforts are also being made to encourage tourists to stay in Nagato while exploring the surrounding region. These efforts coupled with increased repeat-visitors will bolster Nagato's tourism industry. Industry vitalization and dynamic community building are the key elements in constructing a Nagato where all citizens can work with vigor.



3. A city with purpose and smiling faces

Japan is currently experiencing a declining birthrate and aging population. It has become the responsibility of local communities to support child raising and health services to allow a robust populace to lead Japan in the twenty-first century. Nagato is doing its part to build a healthy, safe environment for its citizens.

The city is tackling health management on a com-



munity-wide basis. It is vital to tailor the public health, medical, and welfare services to each citizen according to their needs. Providing all citizens with appropriate quantity and quality of service will allow them to live meaningful lives throughout their life cycles.

Nagato is also encouraging volunteer activities, building a community that assists in child raising and the care of elderly and disabled persons. By maintaining a healthy, happy population of all age groups, Nagato will become a city full of purposeful, smiling faces.

4. A city of individuality

Japan is undergoing educational reforms designed to create a pressure-free educational environment that fosters individualism and strong will. Nagato has also come to the realization that a truly modern lifestyle requires a sense of spiritual fulfillment as well as evident success.

Looking to international examples, Nagato is raising its children to be leaders of society in the future. By fostering community building, Nagato hopes its citizens will learn and participate in enriching exchange not only in childhood, but throughout their entire lives.

In constructing a new community, Nagato hopes to not only maintain the area's traditional history and culture, but also create new culture and forge new history by capitalizing on the originality and individualism of its citizenry.



5. A city of cooperative thinking and self-transmission

In order to develop Nagato to its fullest potential, each and every citizen must play a leading role.

By encouraging all members of society to participate actively in community-building activities, Nagato is promoting a city in which both citizens and government think and act together and in which every person can express themselves.





when whales migrated through the Sea of Japan. In the past, people called this area, "Kitaura," which means Northern Bay. Old-style whaling flourished in Kitaura, from the Edo period until the Meiji period. In this old-style of whaling, whales in the bay were caught with net and killed by fishermen called hazashi, who would climb onto the whale's back to do their work. This old style of whaling took place in the middle of winter and was extremely dangerous, so the technique frequently caused injury and even loss of human life. But nevertheless, whaling was essential to the local population. Whalers in Nagato always felt great compassion towards their catch. Even today, long after whaling has ceased in Nagato, a ceremony is still held every May in Kayoi to pray for the souls of orphaned whale calves buried there.

This old-style of whaling came to an end in the Meiji period, when modern techniques began. Senzaki in Nagato is the birthplace of modern whaling and Japan's first whaling company was founded here in 1899.

There is also a whale museum in Kayoi that exhibits equipment used in whaling, explains whaling techniques, and also shows the lifestyle of a fishing village in the past. In Nagato, the whaling industry was especially prosperous in Kayoi.

Today, whales no longer come to this area, but many local people still have nostalgic feelings about whaling. For people who live by the sea, whales are a source of pride.

p.16-19

**The breeze swayed forest
The road to history and legend**



Taineiji is a very old and famous temple. The temple's garden is surrounded by a forest, and there are also many large trees in the garden. The garden is alive with beautiful greenery in spring and colorful foliage in autumn. Many tourists visit to see these splendid sights.

Taineiji has a sad history, too. The followers of feudal lord Ouchi Yoshitaka rebelled against him. Ouchi



fled from the rebellion to Nagato. He waged his last battle at Taineiji. Ouchi was defeated, however, and committed suicide with the followers who had remained loyal to him. The temple was burned down at that time, but was later reconstructed by the ruling Mori family. Though the Ouchi family brought much wealth and culture to Yamaguchi, the Kyoto-like city they had built was nearly completely destroyed.

The temple is located between the famous, large Yumoto Hot Spring and the more secluded Tawarayama Hot Spring. Tawarayama Hot Spring is a hot spring widely renowned for the healing properties of the water. Many people come to the Tawarayama hot spring seeking medical treatment and may stay in Nagato for a long time.

There are various legends in Nagato. One of the most interesting is the legend that the beautiful Yang Guifei escaped from the Tang emperor in China to Nagato. There is a Buddhist statue at a temple in Yuya that is said to have been possessed by the princess, and also a grave that is said to be hers.

p.20-21

**The churning cobalt wind swept sea
Omijima ; The Alps upon the sea**



The scenery on the Sea of Japan, near Omijima island is called the "marine Alps" because many rocks here have been eroded by the rough waves into intriguing shapes. If you want to see this scenery up close, many pleasure boats offer tours of the area. If you want to enjoy the natural beauty of Omijima island, there are many convenient trails for hiking. Either way, Omijima's spectacular scenery is sure to be impressive.

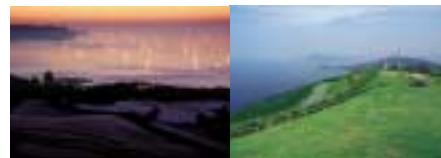
Omijima is part of the Kitanagato Coast Quasi-National Park. The painter Higashiyama Kaii, one of the most famous artists in Japan, was moved by this scenery and used it as inspiration for a mural of the Imperial Palace.



p.22-23

**From the windy hill
Our terraced hometown**

Terraced fields are rice paddies built on the side of mountains or hills. There are many terraced fields in Nagato, and, among them, the terraced fields of Yuya are especially famous. These terraced fields are so enchanting that they were chosen as one of the "100 best terraced-field scenery in Japan" by Japan's min-



istry of Agriculture. They also often attract many photographers. On summer evenings, the lights of many fishing boats can be seen glittering in the Sea of Japan from the top of the terraced fields. The lights of the boats appear to be dancing around on the ocean like fireflies in the night's sky. Sadly, the number of terraced paddy fields is gradually declining, and local people are endeavoring to protect them by forming the Yuya Terraced-Field Scenery Preservation Society.

Mukatsuku Peninsula, where most of the terraced fields can be seen, lies between the Heki and Yuya areas. The Senjojiki plateau on this peninsula has a height of 333 meters, and there is always a strong wind at the top. Nearby is the Heki Wind Park, a wind-power generation plant with huge windmills. There is also a spectacular view at night from Senjojiki of the lights from the fishing boats.

p.24-25

**The song of the kilns ; Hagi yaki pottery
Nagato Fukawa Sounose**



There are four kilns in Fukawa-Sonose that make pottery known as "Hagi yaki." Hagi pottery is said to have begun in 1604. Mori Terumoto, when he was constructing a castle in Hagi, built a kiln for two potters whom he had invited over from Korea.

After that, kilns were also built in Nagato-Fukawa, and many potters began to make pottery there. At that time, the pottery made here was called "Fukawa yaki," and pottery made in Hagi was known as "Matsumoto yaki." From the Edo period into the Meiji period, however, the feudal system disappeared, and assistance from the Mori clan ended, causing many potters to move to other areas.

The present-day potters have passed on the fine tradition from generation to generation since the Edo period. Their homes are in a valley of the Sonose River, surrounded by mountains. It is here that they are inspired to create original works for the world to appreciate.



p.26-27

**The wind of cultural change
The atmosphere of tradition and innovation**

In the center of Nagato there is an outdoor theater

A BREEZE FROM NAGATO



PROLOGUE

The City of Nagato as we know it today was formed on March 22, 2005, by the merger of four towns, Nagato, Yuya, Heki and Misumi. Nagato is situated in the northwest of Yamaguchi Prefecture. The Sea of Japan lies to the north, and the coastline is designated as the Kitanagato Coast Quasi-National Park. There are many bountiful fishing grounds along this coast, and the local fishing industry has flourished since ancient times. Historically, Nagato was also famous for whaling, and whales were captured when they strayed into the bay of Nagato.

The coastline offers dramatically different scenery, from the white beaches to the rocks that have been eroded by the pounding surf of the Sea of Japan. In particular, the island of Omijima is famous for many uniquely shaped rocks rising from the sea that are known locally as the "marine Alps." The many other impressive sights in Nagato include Senjojiki plateau, which provides a splendid view of the Sea of Japan; the terraced fields of Yuya that rise from the shore to the tops of hills; and Cape Kawashiri, which is surrounded by deep bluish-green water.

Nagato also has five hot springs. The oldest are Yumoto Hot Spring and Tawarayama Hot Spring. Tawarayama Hot Spring is also a famous health resort. The location of the hot springs range from overlooking the seaside to tranquil, rural surroundings.

Culturally, well-known people from Nagato include the children's poet Kaneko Misuzu; the painter Kazuki Yasuo, who based his works on experiences as a prisoner-of-war in Siberia; the famous Japanese playwright Chikamatsu Monzaemon, who is believed to have been born in Nagato; and Murata Seifu, who reformed the Hagi economy during the Edo period (1603–1868). Such figures form the solid foundations of Nagato's culture. This region's history is also well known throughout Japan. The Ouchi family is famous for bringing Kyoto culture to Yamaguchi before the family's reign came to an end here. In addition, according to legend, Yang Guifei, who was said to be the most beautiful woman in China, came to this region to escape execution.

The Nagato community has been built against a background of picturesque natural scenery, rich cultural heritage, and a strong sense of history.

p.4-5

Relive the life and time of Misuzu



The children's poet Kaneko Misuzu was born in the Senzaki area of Nagato. An outstanding student who was loved by everyone, Kaneko embarked on her career as a children's poet around the age of 20 when she moved to the city of Shimonoseki to be near her mother. Kaneko first began to read children's verses while working at Ueyama Buneido publishing company in Shimonoseki.

Inspired by what she read, Kaneko submitted manuscripts to four different magazines, and all four of the magazines published her work. As a result of this exposure, the famous children's poet Saijo yaso praised her work, and Kaneko's reputation spread throughout the country. Her poems, which are greatly moving, combine profound inner thoughts with a sharp insight into nature.

In Nagato, more can be learned about Kaneko's life at tourist sights such as the Misuzu Road in Senzaki—the street upon which she was born—and the Kaneko Misuzu Memorial Museum.

p.6-7

A chance to step inside painter Kazuki Yasuo's studio



The Misumi area of Nagato City is well-known for the Kazuki Yasuo Museum, which commemorates the painter of the same name and houses a lifelike reproduction of his art studio. Kazuki spent most of his time in the studio, where he both painted and sculpted with wood, tin or other materials. He enjoyed using real objects in his art, like pieces of wood or stones that he discovered near his home or during walks on the beach. Many of his sculptures are exhibited in the museum, which gives visitors the feeling that they have entered Kazuki's actual studio.

Kazuki is most famous for his paintings. His most well-known works are the Siberia series, which are based on his experiences as a prisoner-of-war in Siberia. They are now kept at the Yamaguchi Prefectural Museum of Art. On display at the Kazuki Yasuo Museum are Kazuki's other paintings, as well as his sculptures and various personal items from his lifetime.

p.8

The legendary birthplace of Chikamatsu Monzaemon

Chikamatsu Monzaemon was an Edo-period playwright who wrote scripts for traditional Japanese theater, such as joruri and kabuki. He is known as the "Shakespeare of the East." Legend has it that Monzaemon was born in the area now known as Nagato. However, this is controversial because other cities also claim to be his birthplace. The debate may never be conclusively solved but the citizens of Nagato are proud of Japan's most famous playwright and cherish the legend that he was born here.

The theory that he was born in Nagato has contributed greatly to the city's cultural development.



Recently, ten of Chikamatsu's works were adapted and performed over five years at Renaisa Nagato, the city's cultural center, which also houses a theater. Both professional actors and local citizens took part in the performances.

p.9

The home of Murata Seifu, one of the forefathers of the Meiji Restoration



During the Edo period, the region that is now Yamaguchi Prefecture was ruled by the Mori family of Hagi. Towards the end of the Edo period, Hagi faced a severe financial crisis and was forced to implement economic reform. Mori Takachika, the thirteenth-generation feudal lord, entrusted the task to Murata Seifu. Murata enforced economizing measures and promoted the production of paper, wax, rice, and salt. In addition, Murata reformed armaments, building an arms storehouse in Edo (present-day Tokyo) and holding defense training on the beach at Hagi.

After retiring from public life at the age of 63, Murata lived at Misumi Sanso lodge, where he began his work educating young people. He died at the age of 73, but several of his students went on to become revolutionaries. Murata's spirit was carried on by two of his students, Yoshida Shoin and Takasugi Shinsaku, who became driving forces behind the Meiji Restoration of 1868.

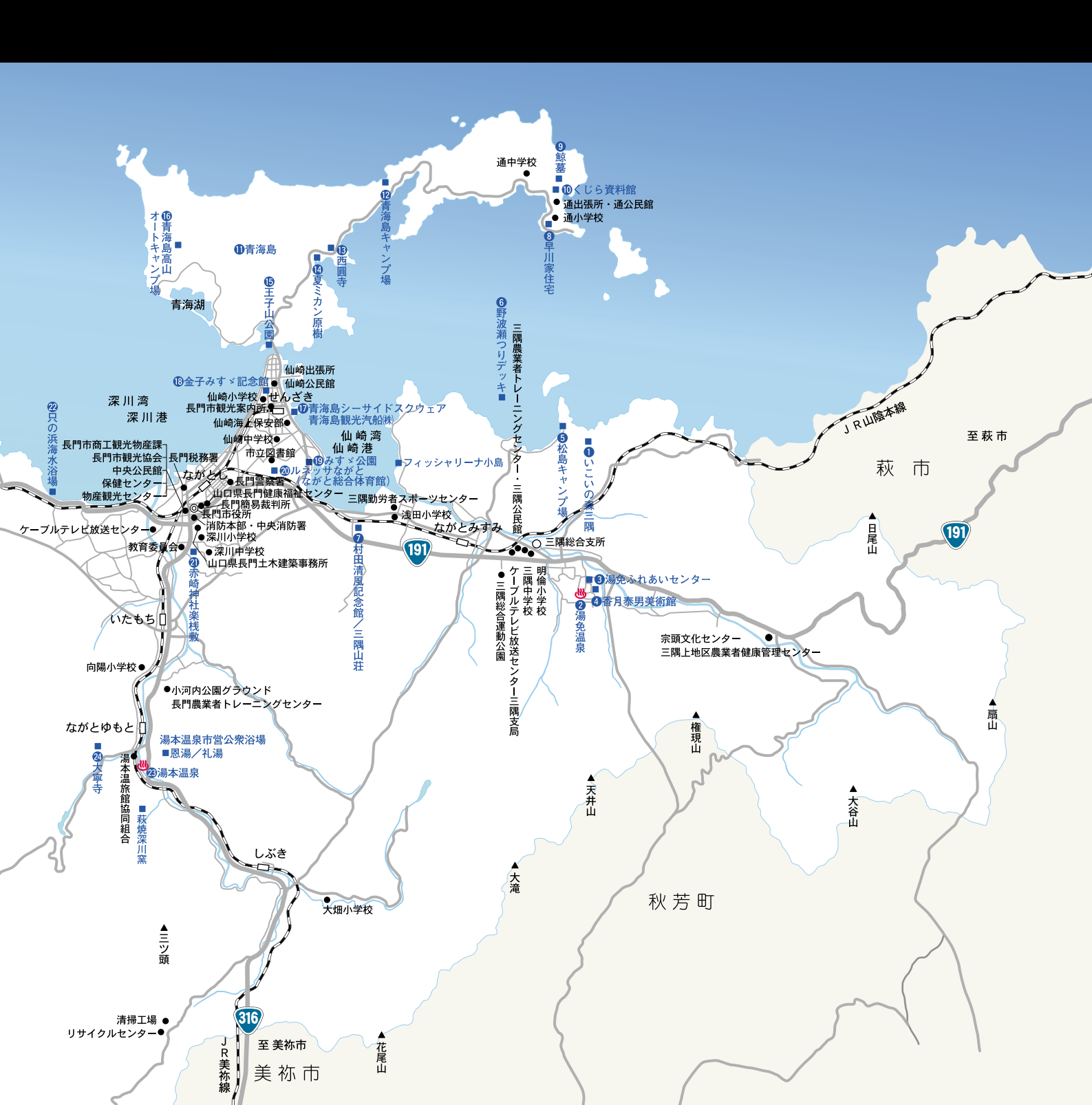
p.10-15

Around Nagato

The North-West Wind blown sea The ancient Whale habitat

When winter approaches, a northwestern wind begins to blow over Nagato. This is the time of year



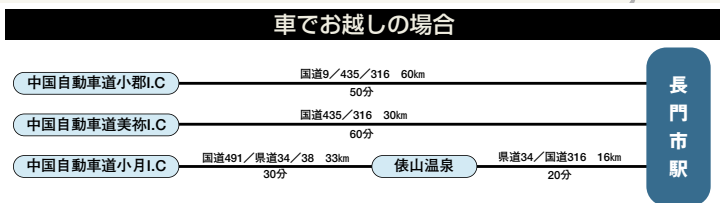
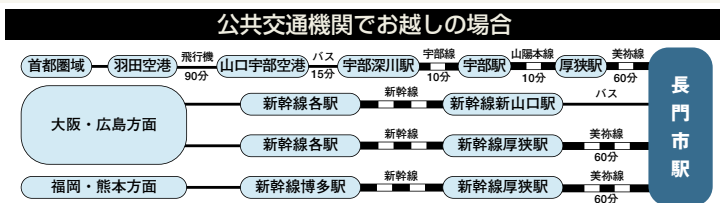
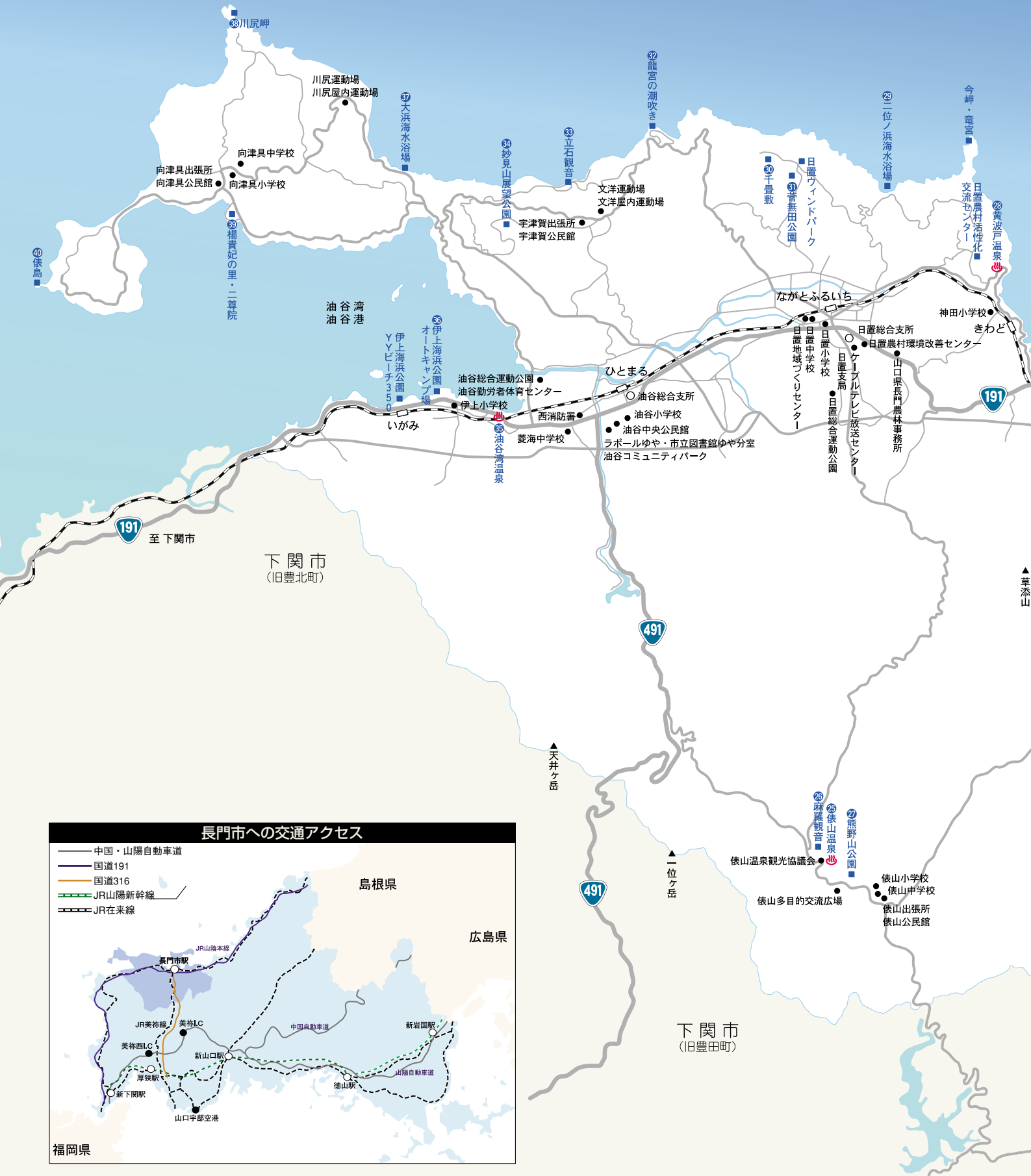


お問合せ先

長門市役所	22-2111	油谷中央公民館	32-1116	山口県長門健康福祉センター	22-2811
三隅総合支所	43-0221	市立図書館	26-5123	山口県長門土木建築事務所	22-2920
日置総合支所	37-2111	長門市ケーブルテレビ放送センター	23-1541	山口県長門農林事務所	37-2155
油谷総合支所	32-1111	ルネッサなごと	26-6001	長門警察署	22-0110
通出張所	28-0211	ラポールゆや／図書館ゆや分館	33-0051	長門税務署	22-2441
仙崎出張所	26-1442	金子みすゞ記念館	26-5155	仙崎海上保安部	26-0241
俵山出張所	29-0041	くじら資料館	28-0756	長門簡易裁判所	22-2708
宇津賀出張所／宇津賀公民館	32-1140	香月泰男美術館	43-2500	長門市商工観光課	23-1137
向津具出張所／向津具公民館	34-1111	村田清風記念館	43-2818	長門市観光協会	22-8404
長門市教育委員会	23-1257	湯本温泉市営公衆浴場 恩湯	25-4507	長門市観光案内所	26-4711
中央公民館	23-1181	湯本温泉市営公衆浴場 礼湯	25-3041	湯本温泉旅館協同組合	25-3611
通公民館	28-0008	湯免ふれあいセンター	43-1000	俵山温泉観光協議会	29-0001
仙崎公民館	26-0326	日置農村活性化交流センター	37-4320	J R長門市駅	22-2600
俵山公民館	29-0063	長門市消防本部	22-5294	青海島観光汽船(株)	26-0834
三隅公民館	43-0811	中央消防署	22-0119		
日置農村環境改善センター	37-2340	西消防署	32-1230		

(市外局番0837)

INFORMATION





ながとの風

長門市勢要覧

発行日／平成18年3月
発行／長門市
企画・編集／企画総務部 秘書広報課 広報広聴係
山口県長門市東深川 1339番地2
TEL.0837-22-2111 (代表)
<http://www.city.nagato.yamaguchi.jp/>
制作・印刷／株式会社 ぎょうせい